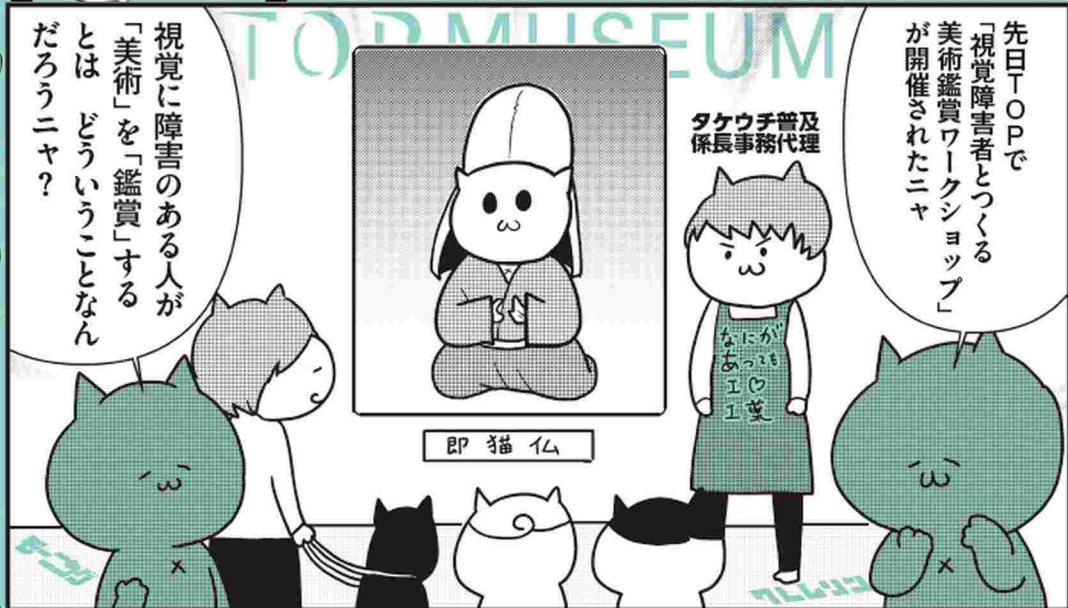


モーニンググ復帰。ワレムリン出張版だニヤ。

見えないからこそ見えることがたくさんあるニヤ。

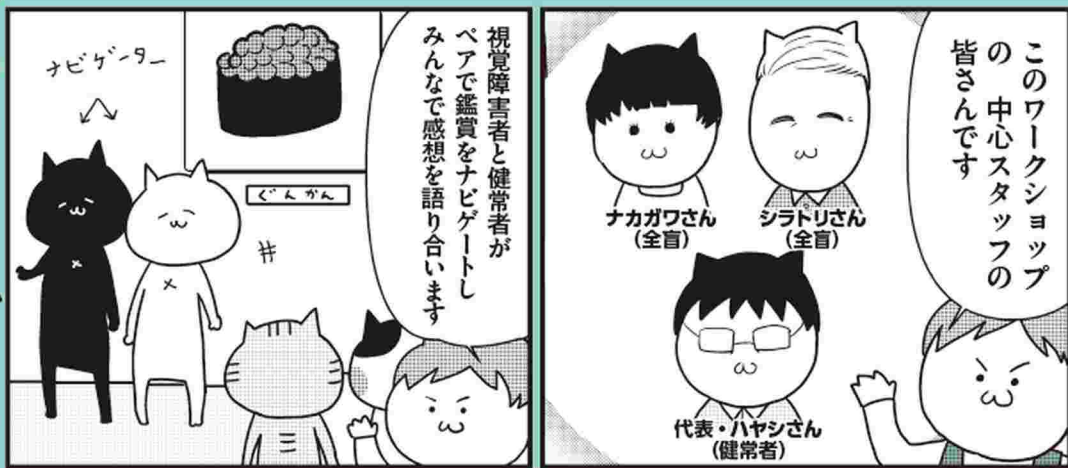


先日TOPで「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」が開催されたニヤ

タケウチ普及係長事務代理

即猫仏

視覚に障害のある人が「美術」を「鑑賞」するとは、どういうことなんだろうニヤ？



このワークショップの中心スタッフの皆さんです

ナカガワさん (全盲) シラトリさん (全盲)

代表・ハヤシさん (健常者)

視覚障害者と健常者がペアで鑑賞をナビゲートしみんなで感想を語り合います

ナビゲーター

くぐんかん



シラトリさんは活動が始まる前から個人的に美術館巡りをしていたんです

美術館へ行こうと思ったきっかけは？

当時のカノジョに誘われたからです

美術館行く？

それは行くしかない

行く行くー!!

全盲でも美術館は  
楽しめるってことが  
わかりまして

個人で美術館に  
お願いして  
鑑賞を続けるよう  
になりました

一緒に見  
てもらえませんか

なかなかよい  
シチュエーションだ

ある時 美術が専門じゃない  
フツーのおじさんと鑑賞する  
ことになりました

その人が草原の絵を  
見て「湖」だって  
言ったんですよ

この絵は湖……

いや「原っぱ」  
ですよ。

えっ!?

目が見えているからって  
全部理解できるわけじゃ  
ないとわかって 鑑賞の  
壁がなくなりましたね



何コレ?

俺も物事の本質は  
何も見えていない

僕も視覚障害者の  
友人を 美術館に  
連れて行きました

スシの絵



コソ

「つまらない」と言わ  
れたのが この活動を  
始めたきっかけです

説明だけじゃなくても…  
おもしろくね〜

ムキになったニヤ?

このニャン画は? モーニング(講談社)発どこまででもの漫画家&コラムニスト、カレー沢薫  
の名誉代表作『クレムリン』(講談社)出張版だニヤ。ニヤオ(なお)、デビュー誌モーニング・  
ツー(講談社)への里帰り新連載『ひとりでしにたい』ロケットスタート。お読みになってニヤ。



オカムラ学芸企画「しなやかな闘い」ポーランド女性作家と映像 1970年代から現在へ、8月14日  
(水より開催！ポーランドの女傑たちがモヤモヤした夏をぶっとばす！TOPへ、いざ行かん!!)



……となってしまうと面白くないんです

だからナニ?

こちらも頭の中で正確に絵が描けるわけではないので情報だけでもらっても



健康者の人は一生懸命「説明」しようとしてくれるんですが……

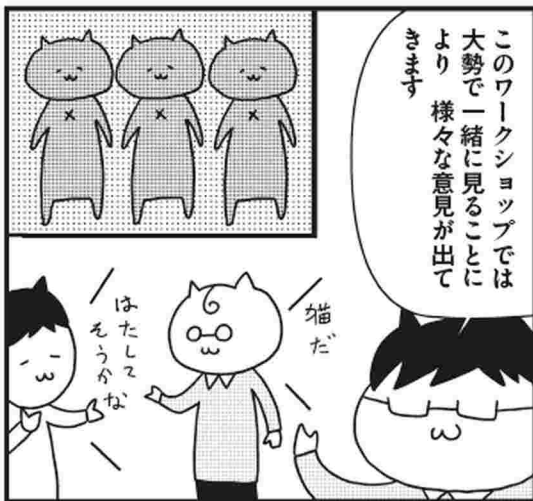
猫・灰色・3匹



オギャー！

オギャー！  
ってカンジ!

曖昧で雑多な言葉が飛び交うので、かえっていろんな想像ができます



このワークショップでは大勢で一緒に見ることにより様々な意見が出てきます

猫だ

はたして  
そうかな



おもしろくなってきた

意見が対立するのも面白いですよ……



全然違う話題に脱線するのも楽しさの一つです

話は変わるけど

1枚の写真で会話が広がっていくのが面白いんだニヤ

作者紹介 明日なき無軌道な暴走を続ける長州出身の倒幕派作家。モーニング(講談社)主催の新人賞に無題・本名で応募。今日に至る。モーニング・ソウでの新連載、略して「ひとしに」をよろしくお願いたしますニヤ。

編集部だより ミラといえば出羽三山?の修験道の寺?の掛け軸?の文字は「鷲」?てなことをつづやきながら、ワークショップで写真を一緒に鑑賞しましたが、声に出さなくてよかったです。「事実」は「本質」とは無関係であると教わった、とても有意義な一日でした(F)





今月の歌

Freedom  
LOVE PSYCHEDELICO 2007

東京都写真美術館



考えるな、感じる。これぞ森羅万象の本質だニヤ。

予告 オカムラ女傑降臨。映像はええぞ〜！の巻だニヤ！！

「ちゃんとイメーゴどきましたか？」

「何と答えれば……？」

「大差ない」

「どうせ俺たちも物事の本質は見えてないんだしな」

「そこまで責任感を持たれるとこちらもどうしてよいかわからなくなるので 気楽に接してほしいですね」

「健康者の側はあくまで「健康者として振舞わねば」と気負ってしまいがちですが……」

「ちゃんと説明してあげねば!!」

「キリ」

「組織を大きくすることよりも 障害者の美術鑑賞の輪が自然に広がるのがいいですね」

「小さいのが好きなの?」

「月券手に広がれ」

「マニキュア化するのは大変ですし!」

「漫画的にデカいことを 言ったほうがいいですか?」

「気負うなど 言ったばかりだぞ」

「ハヤシさんの これからの野望はなんだニヤ?」

「展示室がフローリングなので ちよつと歩きづらそうですが」

「ツル」

「改装による 意外な余波」

「犬が参加してるニヤ」

「盲導犬と一緒に参加される方もいます」

東京都写真美術館ニュース別冊「ニアズ」104号 ●発行日:2019年8月17日 ●企画・編集:東京都写真美術館事業企画課普及係 ●発行:公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内 www.topmuseum.jp ●本誌掲載の記事、漫画の無断複写、複製、転写を禁じます。Copyright © Tokyo Photographic Art Museum \*この漫画は取材を参考に構成されたフィクションです(協力:講談社モーニング編集部/デザイン:田中幸秀 Double Trigger)